

自己評価		
学校運営計画(4月)		評価(総合)
学校運営方針	「チーム苅工」として教育活動を展開し、志と自立心・思いやりの心溢れ、グローバルな感覚をもって地域産業を支えるモノづくりのスペシャリストを育成する。	
過去の成果と課題	年度重点目標	具体的目標
過去の成果として、ものづくりを通して培われた技術・技能を発揮し、全国大会において優秀な成績を収め世界大会に出場したWRO、全国大会に出場したマイコンカーラリー・レスリング部・陸上部・ロボット研究部・写真部など、生徒主体の教育活動が十分に展開できるようになった。 今年は、苅田町イلمネーション事業に代表される地域との連携に加え、「チーム苅工」としての教育活動をさらに発展・充実させ、地域に開かれた魅力ある学校づくりと本校のブランド化を図る。確かな学力を育成するとともに、規範意識や危機管理意識の向上による安全で安心な学校づくり、5Sの徹底、行事を通して育む豊かな心と思いやりの精神など、工業人としての資質の向上とコミュニケーション能力の育成を図る。また、「社会に開かれた教育課程」の視点に立った地域の人的・物的資源の活用など、社会教育との連携を深めることでもたらされる実体験を重視したキャリア教育の推進を図る。	一人一人の人格が尊重される安全・安心な学校づくりの推進と思いやりの心の醸成	○危機管理マニュアルの改善を図り、危機管理意識の向上と対応能力を高める。 ○悩みやいじめの早期発見・早期対応による安心な学校環境づくりを推進する。 ○人権・同和教育、薬物乱用防止教育および命の教育を推進する。 ○豊かな心の涵養を目指した学校行事等の充実を図る。
	「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れた主体的・対話的で深い学びの推進	○好奇心と創造力を喚起するICT等を活用した学習活動の推進を図る。 ○「ものづくり」への興味関心を育てる工業教育を推進する。 ○新しい教育課程の円滑な実施と目標に準拠した観点別評価の定着を図る。 ○朝読書と運動した授業規律の確立を図る。
	自主自立・規範意識の向上・5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)の徹底	○挨拶「服装」「時間厳守」等、基本的な生活習慣の確立を図る。 ○積極的な生徒指導により規範意識の向上を図る。 ○部活動、生徒会活動等の活性化による自主・自立、母校愛と協働の精神の涵養を図る。 ○5S徹底による工業人としての資質の向上とコミュニケーション能力の育成を図る。
	キャリア教育の推進とグローバルな感覚をもった地域に根ざした人材の育成	○資格取得推進と進路マップによる進路意識の醸成を図る。 ○インターンシップや「産業人材育成事業」を活用した体験教育の推進を図る。 ○生徒自身の特性を活かせる進路希望の実現を図る。 ○グローバルな感覚を育成するための教育活動を展開する。
	地域に開かれた魅力ある学校づくりとブランド化	○「ものづくり」を通じた地域貢献事業の推進と創造力の育成を図る。 ○地域・中学生・保護者への学校情報の積極的な発信を行う。 ○地域のボランティア活動への積極的な参加を推進する。 ○地域連携を活かしたブランド化の構築を推進する。

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である

	具体的目標	具体的方策	評価(3月)			次年度の主な課題
教務部	授業規律の遵守・授業改善	授業規律を確立させ、ICTを活用して効果的な学習指導を工夫し、授業改善に繋げるような体制を構築する。				
		新学習指導要領の内容を踏まえた授業改善と、定期考査に頼らない新しい評価方法により、生徒を多面的に評価し、個性の伸長と学力向上を図る。				
	興味関心を育てる工業教育の推進	ICTを活用して「ものづくり」への興味関心を高め、工業教育における基礎学力の重要性を理解させることで、その定着と向上を図る。				
		校務支援システムの効果的な活用を推進することにより、教職員が生徒に関わる時間を確保し、有意義な学習指導が行える体制を推進する。				
主体的・対話的で深い学びの推進	「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れ、ICTを利用して主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導、授業改善が行えるよう、教員間で連携する。					
	教員相互間の研究授業、公開授業週間への参観を促し、学びの質を高めるための授業改善を推進する。					
教育情報課	ICT等を活用した学習活動の推進	他の分掌や科、学年と協力し校務支援システムを活用することで、データを一元管理する環境を整備し、教育活動の効率化を図る。				
		一人一台端末の体制整備に合わせ、職員・生徒全員がタブレットを活用する授業を最低でも年1回は行うように推進する。				
生徒指導部	基本的な生活習慣の確立を図る	門立ち指導・みだしなみ指導を継続して行い、「挨拶」「服装」「時間厳守」等、基本的な生活習慣の確立を図る。				
		毎月の学校生活アンケートや定期的個人面談を確実に実施し、悩みやいじめの早期発見・早期対応による安心な学校環境づくりに努める。				
	関係機関と連携した生徒指導を行う	警察・自動車学校等と連携した交通安全教室を実施し、交通事故の未然防止に努める。非行防止等の規範意識育成のため、各種講演会の内容充実を図る。				
		登下校指導を強化し、交通マナーの向上を図る。また、PTAとも連携し地域のイベントでの巡回や登校指導を行う。				
生徒会・委員会活動・部活動の活性化を図る	各種委員会及びリーダー、生徒会役員の育成を図り、豊かな心の涵養を目指した学校行事等の充実に努める。					
	部活動生集会、部室等点検を行い、他の生徒の模範となるよう自覚を促す。また、他分掌と連携した広報活動を積極的に実施し、各部の活動状況や生徒の頑張りを地域や企業、中学校へ強力にPRする。					
保健課	学習環境の整備と安全管理を行う	清掃活動を徹底させるとともに、美化コンクール・美化点検を定期的に行い、美化意識の向上を図る。				
		保健だよりを定期的発行し、感染症や感冒への早期対応の指導を継続する。また、自然災害等の緊急時行動マニュアルの徹底を図り、「命を守る行動」の指導を徹底する。				
キャリア教育部	進路実現に向けた学力の向上	就職問題集やSPI問題集などに早期より取り組み、模擬試験を実施し結果を反映させ意識向上を目指す。				
		学年・普通教科と連携し、夏季休業中の補習体制を綿密かつ効率的に整え、就職試験・大学受験に備える。				
	キャリア意識の向上	進路閲覧室の利用促進を促し、インターネットを活用した、大学・専門学校・公務員・企業の情報収集を行い、IT活用能力を育成する。				
		インターンシップ・進路ガイダンス・工場見学・応募前職場見学・大学との連携授業などを通じ、進路意識の向上に繋げる。				
進路希望の実現	企業・学校説明会を通して情報収集を行い、個人面接で得た生徒の進路希望を担任と情報共有しながら、個に応じた進路指導を行い、ミスマッチのない適切な進路選択を促す。					
	進学・公務員希望者にはオープンキャンパスへの参加や、休日や長期休業を利用した各種講習会に積極的な参加を促し、早期より志望校対策を行う。また、GDや適性検査実践講習会を行う。					

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

自己評価

学校運営計画(4月)

評価(総合)

Table with 2 columns: 学校運営方針, 学校運営計画(4月). Includes sub-sections for '学校運営方針' and '学校運営計画(4月)' with specific goals and strategies.

Table with 5 columns: 具体的目標, 具体的方策, 評価(3月), 次年度の主な課題. Contains detailed evaluation criteria and strategies for various school activities.

学校関係者評価

評価(総合)

- 自己評価は
A : 適切である
B : 概ね適切である
C : やや適切である
D : 不適切である

Table with 2 columns: 項目ごとの評価, 学校関係者評価委員会からの意見. Contains evaluation results and committee opinions for various school projects.

自己評価

学校運営計画(4月)		評価(総合)
学校運営方針	「チーム苅田」として教育活動を展開し、志と自立心・思いやりの心溢れ、グローバルな感覚をもって地域産業を支えるモノづくりのスペシャリストを育成する。	
昨年の成果と課題	年度重点目標	具体的目標
<p>昨年の成果として、ものづくりを通して培われた技術・技能を発揮し、全国大会において優秀な成績を収め世界大会に出場したWRO、全国大会に出場したマイコンカーラリー・レスリング部・陸上部・ロボット研究部・写真部など、生徒主体の教育活動が十分に展開できるようになった。</p> <p>今年は、苅田町イルミネーション事業に代表される地域との連携に加え、「チーム苅田」としての教育活動をさらに発展・充実させ、地域に開かれた魅力ある学校づくりと本校のブランド化を図る。確かな学力を育成するとともに、規範意識や危機管理意識の向上による安全で安心な学校づくり、5Sの徹底、行事を通して育む豊かな心と思いやりの精神など、工業人としての資質の向上とコミュニケーション能力の育成を図る。また、「社会に開かれた教育課程」の視点に立った地域の人的・物的資源の活用など、社会教育との連携を深めることでもたらされる実体験を重視したキャリア教育の推進を図る。</p>	一人一人の人權が尊重される安全・安心な学校づくりの推進と思いやりの心の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○危機管理マニュアルの改善を図り、危機管理意識の向上と対応能力を高める。</li> <li>○悩みやいじめの早期発見・早期対応による安心な学校環境づくりを推進する。</li> <li>○人權・同和教育、薬物乱用防止教育および命の教育を推進する。</li> <li>○豊かな心の涵養を目指した学校行事等の充実を図る。</li> </ul>
	「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れた主体的・対話的で深い学びの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○好奇心と創造力を喚起するICT等を活用した学習活動の推進を図る。</li> <li>○「ものづくり」への興味関心を育てる工業教育を推進する。</li> <li>○新しい教育課程の円滑な実施と目標に準拠した観点別評価の定着を図る。</li> <li>○朝読書と運動した授業規律の確立を図る。</li> </ul>
	自主自立・規範意識の向上・5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>○挨拶「服装」「時間厳守」等、基本的な生活習慣の確立を図る。</li> <li>○積極的な生徒指導により規範意識の向上を図る。</li> <li>○部活動、生徒会活動等の活性化による自主・自立、母校愛と協働の精神の涵養を図る。</li> <li>○5S徹底による工業人としての資質の向上とコミュニケーション能力の育成を図る。</li> </ul>
	キャリア教育の推進とグローバルな感覚をもった地域に根ざした人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資格取得推進と進路マップによる進路意識の醸成を図る。</li> <li>○インターンシップや「産業人材育成事業」を活用した体験教育の推進を図る。</li> <li>○生徒自身の特性を活かせる進路希望の実現を図る。</li> <li>○グローバルな感覚を育成するための教育活動を展開する。</li> </ul>
	地域に開かれた魅力ある学校づくりとブランド化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「ものづくり」を通じた地域貢献事業の推進と創造力の育成を図る。</li> <li>○地域・中学生・保護者への学校情報の積極的で効果的な発信を行う。</li> <li>○地域のボランティア活動への積極的参加を推進する。</li> <li>○地域連携を活かしたブランド化の構築を推進する。</li> </ul>

学校関係者評価

評価(総合)	自己評価は
	<p>A : 適切である</p> <p>B : 概ね適切である</p> <p>C : やや適切である</p> <p>D : 不適切である</p>

具体的目標		具体的方策	評価(3月)			次年度の主な課題	
工業科	機械科	主体的にモノづくりができる技術や知識の向上を図り、安全教育を徹底する。さらにキャリアアップを目指した資格取得を奨励する。	5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)を徹底することで安全教育を推進し、実習中の事故を防ぎ、効率よく作業できる環境を整える。				
		モノづくりコンテストや匠に学ぶなどの競技会に積極的に参加させ、より高いレベルの技術・技能の習得を目指す。					
	機械科として地域に必要とされる人材を育成し、産業界に密着した学科を目指す。	実践的な教育内容を充実させ、産業界に必要とされるエンジニアを育成する。					
		ものづくり教室や出前授業などを積極的に行うことで、地域に密着し、開かれた機械科を目指す。また、工業高校をより理解してもらうことで、志願者数の増加を図る。					
	電気科	資格取得による専門知識の向上と実践的な技術を習得したグローバルに活躍できる中堅電気技術者の育成を目指す	卒業までに全員が第2種電気工事士の取得を目指して、学習活動を展開していき、さらに上級の資格(第1種電気工事士試験、2級電気工事施工管理技士補・電験三種)にも積極的に挑戦させるとともに、ジュニアマイスターの取得を目指す。				
		産業界の要請に応えられるような実践的な技術を身に付けた電気技術者の育成を目指し、ものづくりなどの技能体験を通して技術・技能を習得させ、創造力豊かな地域人材を育てる。					
	安全教育の徹底と地域との連携を深める活動の推進	5Sを徹底し、安全管理の意識と必要性を伝え、実習の中で実践できるように指導する。また、高大連携やものづくり技術の伝承を行い、職員間で、実践力を養う。					
		地域に密着した活動(エコデンレース等)を推進し、連携を深める。また、新たに、eスポーツの環境を整え、出前授業や科通信などを通して中学生に電気科の魅力を発信する。					
情報技術科	基礎的な技術・技能の向上及び進路実現できる資質向上	情報技術系の資格取得を積極的に取り組ませることにより、進路意識の高揚と自己実現を目指す。					
		グローバルに活躍できる技術者を育てるために、基礎的な学力、技術・技能の向上を図る。					
	地域に根付いた情報及び電気・電子系技術者の育成	半導体人材育成事業等を通じて「ものづくり」の実践的な技術を高めるとともに、地域貢献に取り組む。					
		産業現場が求める各種の基礎技術・技能を、ものづくりコンテストや各種大会に挑戦することで、実践的を養う。					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

--

評価項目以外のものに関する意見

--